

かごしまの巨木と出逢う



あなたに出逢えてよかった

ここには、凜とした空間がある



- ◇ 日時:平成25年10月27日
- ◇ 講師:佐伯 直憲氏 (樹木医)
- ◇ 主催:フォレスト22

(鹿児島県森林ボランティア団体)



巨木を深く知り、そして学ぶ

Dr.サエキと始良・霧島の巨木を巡るバスツアー

貴重な経験をおしみなく語る



佐伯 直憲氏(樹木医)

あなたに出逢えてよかった

森の重鎮(巨木)には、身近な地域の人々が大切にしている歴史があるから、訪れる人の心を打つのかも知れません。

幾世代の人々の喜びも悲しみも包み込んできた森の重鎮(巨木)は、いつも人々の暮らしと共に生きてきた。そして、今ここに、凛として立っています。

今回、巨木は、決して強いわけでもなく、繊細で微妙な環境のバランスの中で生きていることを学ぶでしょう。

最も尊いのは、

森の重鎮(巨木)を守りぬき、そして、共に寄り添い繋がってきた人々の幾世代を超えた時の重みだと思います。

今回、ご案内するほとんどの巨木を、専門的な立場で優しく見守り繋がってきたのが、樹木医 佐伯 直憲氏です。

佐伯氏のみが語れる、多くの貴重な体験を知り得る、絶好の機会になると思います。巨木の現状など、私たちが知りえない多くの気づきや感動を持ち帰ってください。

そして、自分のふるさとや身近な地域の良さに目を向けてくださったら嬉しく思います。あわせて、樹木医の仕事についての理解を深める機会になれば幸いです。

さあ、出かけましょう！

森の重鎮に出逢ったとき、あなたは五感で何を感じるのでしょうか？



蒲生神社 (オオクス)



オオクス



蒲生神社



オオクス

蒲生八幡神社のオオクスは、昭和27年、国の特別天然記念物に指定されており、地域のシンボルとなっています。樹高30m幹回り24.22mです。内部は、直径4.5m、8畳の空洞になっており、樹齢は、推定1,500年といわれています。昭和63年度に環境庁が実施した巨樹・巨木調査で、日本一とみとめられました。

蒲生八幡神社は、12世紀初めに蒲生家初代の蒲生舜清(カモウチカキヨ)が宇佐八幡宮を勧請して八幡神社を建立した当時、神木として祭られていたといえます。





帖佐八幡神社 (イチョウ・ソテツ)



イチョウ



帖佐八幡神社



ソテツ



境内の苔

帖佐八幡神社のイチョウは、樹齢数百年と言われている。樹高は14.5m、幹回りは、7.1m、県内で10本の指にはいる大きさです。幹内部は空洞になっています。昭和38年に始良町指定、現在は、始良市指定になっています。

帖佐八幡神社は、13世紀後半に京都の石清水八幡宮から勧請したと伝えられています。境内は、苔で全面覆われており、樹高が約6mのソテツが生育しています。





荒瀬城跡（イチイガシ）



イチイガシ



荒瀬城跡（イチイガシ）

荒瀬城跡のイチイガシは、隼人町湯田の荒瀬城跡にあります。平成9年に町指定の天然記念物に指定されています。樹高は26m、幹回りは6.2m、県内で3番目に大きいイチイガシです。

県道からは、小山みたいに見えますが、ほぼ1本の木で構成されています。





高座神社 (イチイガシ・ナギ)



高座神社のイチイガシ



ナギ



ナギ

高座神社のイチイガシは、樹高35m、幹回りは7.75m、鹿児島県で一番の大きさです。幹内部は空洞になっていますがウレタンで塞いであり、社殿の前に生育して社叢林のほぼ中央に威風堂々とたっており樹勢は良好です。

ナギは、樹高約25m、幹回り4.34m、ナギとしては、日本一といわれています。

平成元年に社叢林が県天然記念物に指定されています。





宮毘神社 (カヤ)



カヤ



カヤ



カヤ

宮毘神社のカヤは、樹高24m、幹回りは4.9m、県内でも有数の大きさです。昭和51年に市指定天然記念物に指定されています。





飯富神社 (イヌマキ・イチイガシ・モミジ)



飯富神社のイヌマキ



イチイガシとモミジ



イヌマキ



モミジ



飯富神社

飯富神社のイヌマキは、幹回り5.8mで県内の3本の指に入ります。ちなみに鹿児島県で一番大きいイヌマキは、鹿屋市の熊野神社にあり幹回り、9.0m樹高が25mです。
イチイガシは、幹回り4.77m、県内で10本の指に入る大きさです。
イロハモミジは、幹回り1.7mです。
昭和50年に市指定天然記念物に指定されています。





福山町 (小ミカン)



福山町の小ミカン



小ミカン

福山町の小ミカンは、ミカン園の中にあり、樹高は約4mあり園内で異彩を放っています。ただ北側の腐朽が激しく、以前は脇を通る里道上まで枝をはり、かなりの果実が取れていたらしいが、以前の面影はないです。昭和50年に市天然記念物に指定されています。

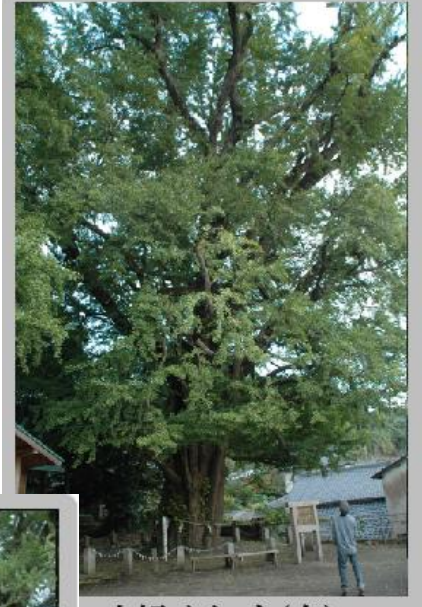




宮浦宮 (夫婦イチョウ)



夫婦イチョウ(左)



夫婦イチョウ(右)



宮浦宮

宮浦宮の夫婦イチョウは、社殿の両側に生育しています。樹高は、両方共、38mで幹回りは、右側が8.4m、左側は8.2m、県内で1番と3番です。2番目は、鹿屋市輝北町の諏訪両神社に生育しています。

夫婦イチョウと呼ばれていますが、両方とも雌木です。右側は、1791年(寛政3年)の大火による焼け跡があり、左側は、1877年(明治10年)の西南の役の際の砲弾跡があります。昭和39年に県指定天然記念物に指定されています。

日本一のイチョウは、青森県深浦町の北金ヶ沢のイチョウで樹高40m、幹回り22mで気根が発達していて地元では「垂乳根のイチョウ」と呼ばれています。

宮浦宮は、延喜式内社として醍醐天皇の代から(約千数百年前)の古い由緒があり、大隅五社の一つである。

